

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

353号

2020年7月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

「突きつけられた覚悟」～6・15共同宣言20周年を迎えて

◆統一は、人同士のパートナーシップにも似る◆

6月16日、開城の南北共同事務所爆破という報に触れ、エーリッヒ・フロムの本の一節が浮かび紐解いて見ました。－「誰かを愛するというのは、単なる激しい感情ではない。それは決意であり、決断であり、約束である。もし愛が単なる感情に過ぎないとしたら、『あなたを永遠に愛します』という約束には、何の根拠もないことになる」。－6・15宣言で、互いを統一のパートナーと認め合い、10・4宣言、板門店宣言、平壤宣言などで合意を重ねた南北の関係は、統一までに克服すべき課題を共有し、同じ屋根の下で暮らす未来像まで映し出すようになってきました。

統一という永遠の愛を約束した両者が問われた、約束を果たそうという決意、決断。私にはその決意の揺らぎが、今回の事態につながったと思えてなりません。

◆叩く姑より、止める小姑のほうが憎い◆

爆破の直接の原因である脱北者団体によるピラは、「拡声器放送及びピラ散布を含む全ての敵対行為を中止し、その手段を撤廃する」と記した板門店宣言違反ですが、宣言以降、南の反北団体によるピラ散布はすでに50回を超えています。

北側政府が南側政府に不信感を募らせる材料は他にも多くありました。一時中断していた(その間も韓国独自の軍事演習があった)韓米合同軍事演習は、朝米間の対話機運が減退した昨年8月以降はひんぱんに行われています。

最近また文在寅大統領は、南北関係と平和について語る際「非核化」を真っ先に強調するようになりました。北側にとって自国への軍事的脅威の解消こそが非核化の条件であることを、十分知っ

ているにもかかわらず、です。

「条件が整いしだい正常化する」と約束した開城工団については、北側が操業後の実利を求めないことを明らかにし、国連制裁の口実(＝北側が得た利益が核開発に回るという理屈)を避ける配慮をしたにもかかわらず、南側は米国からの圧力を前に、前に進めようとしませんでした。それらはまるで解決の糸口を避けているかのように見えます。

「叩く姑より止める小姑のほうが憎い 때리는

시어머니 보다 말리는 시누이가 더 밍다」という諺がありますが、文大統領を激しく非難した金与正副部長の眼には「朝米の仲介者」を自称した文大統領が「憎い小姑」のように映ったのではないのでしょうか。



▲横幕には「戦争を超え平和へ」と明記されている

◆険しい壁を踏破するがごとき覚悟を◆

今、私たちは、すでに統一という山頂が見える地点に立っています。しかし、山は頂上に近づくほどに険しくなります。

文大統領には山頂に至る景色が、実際以上に険しい絶壁に見えているのではと思います。

盧武鉉元大統領の側近として、盧元大統領の対米関係改善に挑む苦闘も、非業の死も目の当たりにした文大統領ですが、自らは成長した南の民主力量の土台の上で政権運営を担っているということを忘れてほしくありません。

共同事務所爆破は、北が南に対し改めて覚悟を求めた意思表示に思えます。文大統領にはもう一度覚悟を持って統一問題に取り組んでほしいです。そのための力の源泉が分断のために苦勞し、今回の事態に落胆している南の民衆の中にこそあるのですから。(金昌範)

【翻訳資料】

6月民主抗争33周年

李韓烈烈士のオモニなど国民勲章牡丹章受章

文在寅大統領は6月10日、第33周年6・10民主抗争記念式で、民主主義発展有功者12人に国民勲章牡丹(モソ)章を授与した。

政府は、民主主義の発展に寄与した方々が相応しい礼遇を受けるようにするために、4・19革命60周年、5・18民主化運動40周年を契機に褒賞を推進しており、政府が6・10記念式で勲章を授けたのは今回が初めてだ。

牡丹章受賞者は、全泰壺(チョン・テイル)烈士のオモニ(母)である故李小仙(イッソソ)・前全国民族民主遺族協議会会長)、朴鍾哲(ハク・ジヨソ)烈士のアボジ(父)の故朴正基(ハク・ジヨソ)ギ・前遺家族協理事長)、そして李韓烈(イ・ハニョソ)烈士のオモニの裴恩心(ペ・ウンソソ)・遺家族協名誉会長)などだ。

文在寅大統領はこの日、ソウル龍山区南営洞に

ある民主人権記念館(旧南営洞対共分室)で開かれた、第33周年6・10民主抗争記念式で、民主化有功者が韓国の民主主義の発展に寄与した功労を祝賀した。

文大統領は演説で「今日、私たちの民主主義が、ここまで来るまで多くの献身と犠牲があった。今日、私たちは大韓民国の民主主義の発展に寄与した功労者に勲褒章を授ける」と述べるとともに、「国民とともに心より尊敬と感謝を伝える。忍苦の歳月を共にしてこられた遺族の皆さんにも慰労の心を送る」と伝えた。



▲文大統領から勲章を授与させる裴恩心氏

記念式で勲章を直接受けることになった李韓烈烈士のオモニの裴恩心氏は、民主化運動関係者を代表して手紙を朗読した。題名は「33年目の6月10日に送る手紙」だ(下記に全文を掲載します)。

33年目の6月10日に送る手紙

李小仙オモニ、鍾哲のアボジ、私の言葉が聞こえますか？

私たちに勲章をくれるんだそうです、それで私がこの場に立っています、30年近く、いつも一緒に出掛けて闘った遺家協(社団法人 全国民族民主遺家族協議会)の仲間だったのに、李小仙オモニは全泰壺の傍に行かれ、鍾哲のアボジも息子と一緒に、私が一人でこのように勲章をもらいます、私だけがこのようにしてもらっていいのかなと思っています。

私がオモニとアボジ、そして私たち遺家協の仲間たちと最初に逢ったのは87年8月12日、私の息子 韓烈を見送った直後でした。その前の年に結成された遺家協1周年記念行事に参加したら、オモニとアボジが「これからは韓烈のオモニも遺家協に入会しなさい」と言ってくれて、仲間に入れてもらいました。

当時はろう城現場やストライキ現場にと、本当に遺家協の会員らが闘う現場が多かったですね。

会員らは昌信洞(チャンソソドソ)での共同生活、一つ屋根の下で寝食を共にしながら一緒に闘う現場に出掛けましたね、遺家協の仲間が家族のように、いつも集団で出歩くもんだから、たった一人欠けても周りの人が「どうして一緒に来なかったの」と質問されるほどだったですね。血のつながった親族より親密な関係でしたね。遺家協以外で、今日この場で勲章を授与される方々は厳しい現場で自身を犠牲にしてきた。本当に勲章をもらって当たり前の人々です。そんな方々とともに、私ごときが勲章を貰っているのかと、私ごときが勲章を貰っていいものかと思っています。鍾哲のアボジも、こんな私を見て「そこで何をしているのか」と言われそうで。

しかし、私たちの歴史に再び民主主義のために命を犠牲にし、それで苦しむ家族が生まれることがない国になってほしいと願う気持ちで、恥ずかしながらこの場に立ちました。暖かい心で見守ってください。感謝します。

통일은 우리 손으로! (統一は私たちの手で!)

6・15青年学生協議会が、6・15共同宣言20周年記念オンライン集会を開催

6・15青年学生協議会共同事務局長 李俊一(イ・チュニル)

6月15日、歴史的な6・15南北共同宣言20周年を記念し、6・15日本地域委員会青年学生協議会(韓青・朝青・学生協・留学同など、6・15共同宣言を支持する在日同胞青年学生団体の枠組み)が「6・15共同宣言20周年記念運動決起モイム(集い)」を開催しました。

当初は東京での集会を企画していましたが、新型コロナウイルスの影響により、集会の開催が困難な状況となったため、インターネット会議システム「ZOOM」を活用し、協議会初のオンラインでの開催となりました。当日は約80名もの在日同胞青年学生が参加し、厳しい状況の中でも統一への熱情を絶やさない青年たちの姿を見ることができました。

行事の冒頭で、6・15青年学生協議会の金承民(キム・スンミン)共同会長(韓青中央本部委員長)が乾杯挨拶を行いました。金会長は現在の祖国をめぐる情勢について「6・15共同宣言20周年を迎えたことは喜ばしいが、南北関係の停滞状況は実に残念です。現在の状況は米国の妨害策動と、米国の支配から脱却することができていない南側政府の姿勢に原因があります。6・15共同宣言は統一問題をわが民族同士が力を合わせ、自主的に解決しようという原則を合意したものでした。今こそ私たちが反米自主の旗を高く掲げ、民族自主、民族大団結運動の先頭に立っていきましょう」と語りました。

続いて、6・15南側委員会青年学生本部のハ・チェギル常任代表の連帯挨拶がビデオメッセージで上映され、「今はコロナの状況で会うことができませんが、必ず統一の広場で再会しましょう」と語りました。

また、今年の青年学生協議会が展開する運動に

ついて事務局からの解説も行われました。6・15青年学生協議会では今年、統一への思いを「創造」「実践」することによって、青年学生ひとりひとりの意識と力量を向上させ、統一新時代を切り開いていく「統一念願具現プロジェクト」を実施します。具体的には「統一」をテーマにした創作物(デザイン・写真・動画・歌・エッセイ)を募集し、優れたものは表彰の上で、今後青年学生協議会の運動で積極活用していく「統一創造プロジェクト」と、南・北・海外の青年学生の統一への思いをリレートーク形式でつないでいく「統一実践プロジェクト」です。

それぞれの主体性と創造性を発揮することによって、祖国統一への機運を高めていこうとの運動です。これらの様子は6・15青年学生協議会のフェイスブックページ(下記参照)で見ることができますので、よろしければご参照ください。

プレゼン後は、各地方から

の意見表明があり、韓青から趙正春(チョ・ジョンチュン)東海地方6・15青年学生協議会共同代表(韓青名中支部委員長)が統一への思いを語りました。最後は趙明真(チョ・ミンジン)共同会長(朝青中央本部委員長)の熱い閉会挨拶で乾杯し、モイムは終了しました。

コロナの影響や南北関係の悪化など厳しい状況が続く中、それに負けずに前進しよう!という決意を共有できた記念行事であったと思います。

※6・15青年学生協議会 フェイスブックページアドレス

<https://www.facebook.com/6.15.korean.youth.student/>



▲オンライン集会を通じ祖国統一への想いを共有する

民衆の力で東アジアの平和を創り出すために！

7/12 とめよう！戦争への道 めざそう！アジアの平和2020関西のつどいへ！

関西のつどい実行委員会 事務局次長 星川洋史

私たちは昨年末から「とめよう！戦争への道、めざそう！アジアの平和2020関西のつどい」への取り組みをはじめました。その頃は、トランプ政権の挑発的なアジアに対する軍事・外交政策、これに呼応した安倍政権の憲法改悪・軍拡、中国・北朝鮮・韓国などへの意図的緊張拡大政策、自衛隊の南西諸島への配備など安倍政権の腐敗、情報隠しがありながらも、東アジアでは安倍・トランプ政権と対抗して、朝鮮半島の平和・和解への希望的動向があり、これらに連帯しながら、積極的に「めざそう！アジアの平和」を掲げての集会を計画してきました。

しかし3月に入り、コロナ感染の急拡大の中、予定していた会場を借りるのも難しくなり、開催日を7月12日に延期して開催することになりました。

安倍政権はコロナ感染対策でアベノマスクなど、ひどさ・脆弱性をさらし、長期化する安倍政権、一極体制が生み出す腐敗が次々と明らかになっており、安倍政権への支持率は急速に落ち込んでいます。

コロナ禍の中で人々の動きは回復しているとは言えませんが、今こそ運動の力で安倍政権を追いつめるときです。

しかし、決して気を緩めることはできません。危機をも利用して、憲法上の権利さえ無視・圧殺する動き（緊急事態宣言）を見せています。自らの政権に有利な検察体制のための立法も狙い続けています。秋田・山口へのイージスアショアの基地建設は断念しましたが、それ以上に深刻な問題を抱えている辺野古基地建設では、沖縄県議会選挙で、またも沖縄の人々が「辺野古基地建設反対」の意思を明確にしたにもかかわらず、建設工事を強引に再開しました。ここには安倍政権の沖縄に対する差別的な姿勢が明らかになっています。

ここで日本の運動が、安倍が国会も開かずにこ

の事態から逃げることを許してしまえば、この強権的で、腐敗しきった政治体制を正当化・持続化させてしまうことになります。

そしてそれは、この東アジアに危機をもたらし、日本・韓国の政府に米軍の駐留費の負担増額を求め続けているトランプ政権に対し、これ以上ない同盟者・腰巾着を与えることになります。アメリカの武器の爆買いで、日本の民衆に巨大な財政的負担を押しつけ、韓国・朝鮮の民衆、日本民衆に軍事的緊張を押しつけることになるでしょう。

朝鮮半島が緊張と危機に急転換の兆しを見せている今、上記のことは悪影響をもたらすでしょう。それはまた、4月の韓国国会議員選挙で韓国民衆が創り出した「守旧勢力の敗北を固める」方向とは逆の力と結びつくことになるでしょう。

今、アメリカをはじめ世界各地で白人警察官によるジョージ・フロイドさん虐殺を機に、対立と緊張を煽るトランプに対する闘いが、BLAK LIVES MATTERの運動として急速に広がっています。6月7日には大阪でも黒人・白人・アジア人など若者を中心に3千人もが集まり、アメリカ領事館にデモを行いました。東アジアの平和を求める闘いも、これらの世界の新しい動きと結びつきながら、広がっていきましょう。

今回のつどいの中心は、望月衣塑子さんの「民主主義を守るために—安倍政権とメディア」の講演です。望月さんは、あの鋭い舌鋒で安倍政権と今の日本が抱えている問題に迫ってくれるでしょう。集会の収容人数の確保のために、予備の会場も確保しています。是非ともご参加下さい。

「民主主義を守るために—安倍政権とメディア」
講演 望月衣塑子さん
（東京新聞・社会部 記者）

7月12日（日）
PM2時半開場—3時開会
於：VIA RIVER大阪・4Fホール（裏面地図）
資料代 500円 / （中高生・介助者無料）
手話通訳あり

とめよう！戦争への道・めざそう！アジアの平和 2020 関西のつどい実行委員会
大阪平和人権センター / しないさせない戦争協力関西ネットワーク
／戦争をさせない1000人委員会・大阪

【コラム】 朝鮮人蔘が紅蔘と呼ばれる所以

ある日のこと。「コロナが江戸時代にはやっつたとすれば、おそらく朝鮮ニンジンと生姜湯で治したに違いない」という某夕刊紙の記事を目にした。現代コロナですらニッポン国の無能無策により「免疫力アップ」や「三密回避」という根拠のないお呪いだけで対処しているのだから、さもありなんと思う。

他方で江戸時代に朝鮮人蔘が一般的に使用されるほど民間に普及していたのか？という疑問が浮かぶ。なぜなら朝鮮人蔘と称される生薬は、その輸出大国であった朝鮮でも、また輸入大国であった日本でも庶民の口には入らない高級品であったからだ。

滋養強壮に高い効能を持つ生薬として古くから珍重されてきた人蔘は世界各地に自生している。代表的なものに中国種(田七蔘)、米国・カナダ種(花旗蔘)、日本種(竹節蔘)があるが、朝鮮種は朝鮮(高麗)人蔘として広く認識されている。朝鮮種はサポニンという成分の含有量が非常に多いため他種に比べてその薬効が極めて高い。実際に我が民族は古くから人蔘を「死者をも蘇らせる貴重な薬材」と認識し、「神艸^{しんそう}」や「地精」とも呼んだ。中国や日本が人蔘の地産地消に止まらず、こぞって朝鮮種を輸入していたのはそのためである。特に日本の輸入量は凄まじく、朝鮮で生産される人蔘の8～9割が日本へ輸出されていた時期もあった。(『備辺司膳録』104巻 英祖14年7月12日)

余談ではあるが、米国によるベトナム侵略戦争に加担した国のうち、熱帯雨林での生存率がずば抜けて高かったのが韓国軍なのだそうだ。朝鮮人蔘を常用していた韓国兵は、熱帯特有の伝染病などに罹りにくかったのではないかとされている。

その朝鮮人蔘の価格はというと18世期後半には1斤(約600g)が天銀100両ほどであったという。(『備辺司膳録』185巻 正祖21年6月24日)

現在の価値で換算すると韓国ウォンで約600

万ウォン、日本円で53万5千円ほどになるだろうか。さらに日本側での購入価格はこれよりも大分高値に吊り上げられていたのだから、人蔘がどれほど高価なものであったかが分かる。

朝鮮人蔘が高価であるのは需要に対し供給が追いつかないからである。天然物である「山蔘」、「山養蔘」だけでは需要を賄えず、この問題を解決するために17世紀末頃には朝鮮人蔘の人工栽培が行われ始めた。人工栽培された朝鮮人蔘は「家蔘」と呼ばれるのだが、輸出商品としてだけではなく、銀に代わる対中貿易の決済手段としてこの家蔘が注目され始めると長期保存という観点から人蔘の加工方法も発展していった。

生の人蔘は水分が含まれるため「水蔘」とも呼ばれるのだが、この状態では腐敗してしまい長期間の保存が出来ない。そのため古くから自然乾燥させる加工法が存在した。(乾蔘、白蔘)

しかし、自然乾燥では乾くと砕けやすくなるという欠点があったため、朝鮮では早くから大小様々な人蔘を一緒に煮詰めてから乾かす加工法が採用され、これを「把蔘」と呼んだ。

家蔘の登場以降は、炭火から出る蒸気で加熱した後乾燥させる蒸造加工法に変わってゆく。この方法で加工された人蔘は紅色に変色することから「紅蔘(ホンサム)」と呼ばれるようになった。従って我々の耳に馴染んだ紅蔘とは、朝鮮人蔘の品種を指すものでもなければ、韓国人蔘公社のブランド名でもない。言うなれば「蒸し人蔘」を指す名称なのである。

コロナ禍により資本主義経済圏は大打撃を受けている。主要国の凋落は時間の問題であろう。もしも現行の貨幣制度が崩壊したならば…抗コロナの実用的価値(?)を持つ紅蔘は、その貨幣機能についても再発見され、ポストコロナ時代の珍宝として崇められるのではないだろうか？(檜)



▲滋養強壮に高い効能がある朝鮮人蔘

【読書紹介】

戦争のプロパガンダ10の法則

著者: アンヌ・モレリ

草思社文庫／800円

この本を知ったのは、毎週日曜日に放送しているサンデーモーニングという番組で、この本をテーマに特集を放送していたことです。本で紹介されている10の法則が、現在にも当てはまるのでは？という内容でした。

この本のもとになっているのは、アーサー・ポンソン・ピー氏が書いた「戦時の嘘」という本で、その内容には戦争プロパガンダの基本的なことは10の法則に集約できると指摘しており、著者のアンヌ・モレリが、その10項目を歴史の真実から具体化したもので、内容も10の法則通り第1章から第10章までになっています。

第1章「われわれは戦争をしたくない」、第2章「しかし敵側が一方向的に戦争を望んだ」、第3章「敵の指導者は悪魔のような人間だ」、第4章「われわれは領土や覇権のためではなく、偉大な使命のために戦う」と続き、最後の第10章「この正義に疑問を投げかける者は裏切り者である」で終わります。

プロパガンダとは、意図をもって特定の主義や思想に誘導する宣伝戦略のこと。映像を利用して

本格的にプロパガンダを利用したのはドイツのヒトラーが有名ですね。ブッシュ政権が大量破壊兵器を持っていると大々的に宣伝して攻撃を行ったイラク戦争も、フセインは悪魔のような存在でした。ときに政権は、いろいろな媒体を利用して戦争＝正義という認識を国民に与えるのです。

一方で、現在はインターネットという誰もが利用できる情報媒体があり、情報も昔のように「大本営発表」のような一方的な情報だけを流すといったことはなくなりました。しかし、情報が飽和状態になり「どれが正しく、どれが間違っている」という判断が難しい場合もあれば、ネットを利用したプロパガンダも出てくる

わけです。この本のあとがきには、ネットが普及した現在でも、使われる論法、心理的な戦術、プロパガンダの手法は大きく変わっていないと言及しています。そして、私たちに「熱い心と、冷たい頭を持て。(経済学者: アルフレッド・マーシャル)」と指摘しています。ぜひ読んでください。(ソソ)

◆◆行事案内◆◆

とめよう！戦争への道 めざそう！アジアの平和

2020関西のつどい

日 時：7月12日(日) 午後2時30分 開場・午後3時 開会
場 所：ヴィアーレ大阪(大阪メトロ御堂筋線本町駅3番出口から徒歩2分)
内 容：講演「民主主義を守るために—安倍政権とメディア」
講師：望月衣塑子さん(東京新聞社会部記者)
資料代：500円(中高生・介助者は無料) 手話通訳あり
主 催：とめよう！戦争への道 めざそう！アジアの平和

2020関西のつどい実行委員会 他

TEL 06-6364-0123(中北法律事務所気付)

※来場時には、マスクの着用をお願いします。

※会場への入室時には、検温・手指消毒のご協力をお願いします。

編集後記

子どものころ、体が弱かったので、オモニに朝鮮人参を煎じて飲まされ、とても苦かったという記憶が残っています。実体験をもって朝鮮人参はよく効きます。一度お試しを……。 (ソソ)